



14歳からの哲学 —考えるための教科書—

池田晶子著 トランスビュー 2003

法学部教授 藤田 由紀子

「えっ、14歳から？オレ(ワタシ)達、バカにされてる？」と、思う人もいるかもしれません。いえいえ、そんなことは決してありません。大学生の皆さんに大真面目に本書をお薦めしたいのです。

14歳の中学生に語りかけるような、やさしい語り口になっていますが、「哲学」としての内容的なレベルは落とされていません。1人の人間として、私達が考えておくべきこと—考える、言葉、自分とは誰か、死をどう考えるか、から始まり、家族、社会、規則、恋愛と性、仕事と生活、等々—、それらをどんなふうにとらえたらよいかについて、本書は指南してくれます。特に本書の第3部は「14歳からの哲学」になっていて、宇宙と科学、歴史と人類、善悪、自由、宗教、人生の意味、存在の謎、といったテーマが語られており、大学生の皆さんにも十分手応えのある内容であることは間違いありません。

大学生生活は皆さんが予想していた以上に忙しいと思いますが、時には贅沢に時間を使って、解答のない問いにじっくりと挑んで下さい。皆さんのこれからの人生にとって決して無駄にはならないでしょう。

そして、「考える」ことに楽しみを見出し、もっと「哲学したい」あなたには…、ハーバード大学で人気の政治哲学講義の内容を収録した「これからの「正義」の話しよう」(マイケル・サンデル著 鬼沢忍訳 早川書房 2010)などもお薦めです。より授業の臨場感を味わいたいなら、「ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業」上・下(マイケル・サンデル著 NHK「ハーバード白熱教室」制作チーム、小林正弥、杉田晶子訳 早川書房 2010)の方が良いかもしれません。いずれにせよ、自分のアタマで考えることの面白さを学ぶことができるでしょう。

